

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

福井大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「探求的課題解決能力形成に資するカリキュラムの編成を進める」について、特色ある大学教育支援プログラムや現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されたそれぞれのプログラムに基づき、重点的な項目を選んでカリキュラムの編成を進めていることは、実践的な課題に対する解決能力形成の涵養を図っている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「動機づけ教育充実のための検討を行う」について、平成19年度までの取組を基盤とした「夢を形にする技術者育成プログラム」及び「学士力涵養の礎となる初年次教育の充実」が、平成20年度質の高い大学教育推進プログラム及び平成21年度大学教育推進プログラムにそれぞれ採択され、学生のニーズに合わせて、何度でも統合型体験学習を経験できる取組や総合的な学習経験と創造的思考力・汎用的技能の修得に向けた取組を行うなど、動機付け教育の充実がみられるという点で、優れている

ると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「インターンシップ制度の積極的活用を通して職業意識を喚起する」について、積極的にインターンシップの活用を図り、地域の課題に応じた実践的教育の推進と、企業や卒業生の声を汲んだフィードバック情報によって教育課程の改善を継続していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「【大学院課程】学問的進歩や社会的ニーズに鑑みたカリキュラムの編成に努める」について、平成 20 年度に、専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム「実践力・改革力を培う長期協働実習の組織化」に採択され、教師が協働して学校づくりに取り組むことを支援するため、学校拠点の協働実践研究を中心にカリキュラムが編成されるなど独自の教職専門性開発の組織的な取組がなされていることは、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「動機づけ教育充実のための検討を行う」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「【大学院課程】社会人、外国人留学生への門戸を広げる」及び「【共通】留学生に対する英語による教育プログラムと日本語教育プログラムを充実させる」について、留学生同窓会海外支部の拡大や主として英語による教育・研究指導を行う大学院工学研究科国際共学ネットワーク特別コースの設置等により留学生の受入れ数が着実に増加しているほか、独自の日本語学習ソフトを開発し留学生の学習の便宜を図

っていることや、社会人に対する再チャレンジ枠の設置、長期履修制度の導入等により社会人の学習への便宜を図っていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「教養教育、専門教育等の拡充を目的とした IT 教育の拡大、e-Learning、遠隔教育の導入を図る」について、双方向遠隔授業システムを利用した科目数の拡充、e-ポートフォリオシステム等を活用した IT 教育法を拡大しており、遠隔教育の革新を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「男女共同参画を実現するための取組みについて更に検討する」について、男女共同参画を実現するための取組を積極的にを行い、次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主として福井県内で最初の認定を受けていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「同僚教員、卒業生及び学生による効果的な教育評価を取り入れる等の多様な方法を検討する」について、教員の採用・昇任の際に候補者が模擬授業を行い、教育技法評価委員の合格判定を得ることを条件とし、教育の質の確保を図っていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「教員配置の適正化を図る」について、人件費の管理手法としてポイント制を採用し、学長管理ポイントを作って柔軟かつ機動的な運用を図るなど教員配置の適正化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生の支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「学生の支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「学生相互の交流や課外活動を支援する施設・設備の充実を図る」及び「保健管理センターや学生相談室の機能を強化する」について、修学環境に係るアンケート調査により学生のニーズを把握し、それに対応した修学環境を整備し、保健管理センターや学生相談室による支援を積極的に行い相当数の相談に対応していることは、学生の満足度が高い点で、優れていると判断される。
- 中期計画「就職先の開拓に積極的に取り組む」及び「留学生の進路支援の活動を強化する」について、就職支援室が積極的に企業訪問を行い、また、留学生センターに留学生指導・相談部門を設置しているほか、「留学生と県内企業との交流会」を開催し留学生の国内就職実績を積み重ねていることは、就職に対する実質的な支援を展開している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「学生の履修指導や生活指導等を総合的に支援するための学生支援センターの設置を検討する」について、学生支援センターを設置し、従来、相談内容により個別に対応していた窓口を、「なんでも相談窓口」を設けることにより一本化し、学生ピアヘルパーの協力を得て、学生相談に対応していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「奨学制度の充実を検討する」について、卒業後の福井県嶺南地区への医師就職を条件とした医学部学生対象の奨学金制度や基礎医学研究者を目指す医学系研究科大学院生を対象とした奨学金制度を導入していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「入学料・授業料免除の方法の改善など奨学制度の充実を検討する」について、平成 20、21 年度に、奨学金制度として、「福井大学大学院医学系研究科基礎医学振興奨学金」「福井大学生協奨学金」「福井県医師確保修学資金」「福井大学大学院医学系研究科振興奨学金」「工学研究科学生生活支援経費」が新たに設置されており、福井大学独自の奨学金制度が拡充されていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、3項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「神経系、免疫系などを対象として細胞の分化と増殖の制御機構を分子レベルで明らかにし、高次生体システムの発達・構築とその維持に関わるメカニズムの解明に関する研究を行う」について、神経系、免疫系分野の研究が推進されていることは、チャンネル調節機構に関する研究等において優れた研究成果が生まれている点で、優れていると判断される。

- 中期計画「国内外の研究機関との共同研究で遠赤外領域開発研究センター、高エネルギー医学研究センターなど国際的な研究拠点として先導的な役割を果たす研究を行う」について、国内外機関と学術協定の締結や国際共同研究の推進、研究環境の整備を行っていることは、国際的な研究拠点の形成を積極的に進めている点で、優れている

ると判断される。

- 中期計画「地域共同研究センターと VBL 等の活動を活性化」及び「特許等の技術移転や技術相談・指導を積極的に行う」について、知的財産創出活動の一元化を図るため地域共同研究センター等を統合し産学官連携本部を設置したほか、産学官連携コーディネータや客員教授制度の活用、産学官連携活動ポイント制の導入等により積極的に産学連携活動を活発化させていることは、産業界のニーズを取り入れ、大学発ベンチャーの企業数、大型プロジェクトの事業規模、外部資金獲得額を順調に伸ばし、平成 18 年度以降のライセンス契約の金額が著しく伸びているなど実績を上げている点から、優れていると判断される。
- 中期計画「地域・学校と協働ですすめる地域の学校改革とそのための実践的な教育研究を行う」及び「地域の文化、住民生活、自治の向上に資する地域科学研究を行う」について、県内諸学校や機関との連携研究活動が実践的に行われていることは、地域との連携研究を意欲的に展開している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域の教育研究ネットワークの中心的存在としての役割を強化する研究を行う」について、平成 20 年度に、専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム「実践力・改革力を培う長期協働実習の組織化」に採択され、教師が協働して学校づくりに取り組むことを支援するため、学校拠点の協働実践研究を中心にカリキュラムが編成されるなど独自の教職専門性開発の組織的な取組がなされている。また、科学技術振興機構 (JST) 理数系教員養成拠点構築事業にも採択され、地域の学校や企業と連携し多様な科学啓発活動を進めているという点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (4 項目) のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「共同研究組織を弾力的に設置する」及び「共同利用研究スペースを確保

し、競争的資金による研究や大型プロジェクト研究のための研究スペースを優先的に配分する」、「大型プロジェクトへの応募を積極的に進める」について、研究センターの改編拡充により研究体制の強化に取り組み、全学的にスペースの整理を行い、大型プロジェクトについては研究推進委員会がヒアリング等の審査を実施した上でその使用に供し、スペースチャージ方式を採用するなど、研究スペースを柔軟かつ優先的に配分していることは、大型プロジェクトを多く獲得し外部資金獲得等の実績を上げつつある点で、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「人的資源を学長の下、全学的観点から最適な定員配置を検討する」について、ポイント制の導入による人員管理を採用し、学長管理ポイントにより重点領域への追加人員配置を実現していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「高エネルギー医学研究センターを、医学科講座との連携を強化する形で改組し、21世紀 COE プログラムを核に世界に誇る画像医学の研究教育拠点としての形成を目指す」について、高エネルギー医学研究センターの部門数を増やし、学内連携体制を高め、分子イメージング等の拠点作りを推進していることは、特色ある研究体制の整備に貢献している点で、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「可能な教育・研究分野からサバティカル制度の導入を検討する」について、平成 16～19 年度の評価においては、サバティカル制度の導入が検討段階にとどまっている点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年 4 月からサバティカル制度が導入され、1 名の教員が制度を活用しているなど制度が機能していることから改善されており、「おおむね良好」となった。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が 良好 である
(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標 (1 項目) が「良好」であることから判断した。
(参考) 平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。
【評価結果】 中期目標の達成状況が 良好 である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「高度な知的拠点として、大学（附属学校園を含む）の有する教育・研究機能をもって地域社会の教育、文化、経済、産業等の発展に貢献する」について、地域の不登校児等への支援活動である「ライフパートナー事業」、学生が子ども主体の学習活動を援助する「探求ネットワーク事業」及び現代的教育ニーズ取組支援プログラム「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」を活用し、隣接する商店街を中心に、学生と地域住民とが協力して地域の活性化を図る活動等、地域社会との連携に関する教育研究活動を積極的に多数展開していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「国際交流の一層の推進を図る」及び「帰国留学生同窓会の支部を帰国先に設置し、連携して各種交流を推進する」、「教職員や学生の国際会議等への参加や海外研修等への支援を進める」について、留学生と地域社会との交流の促進、海外における留学生同窓会支部の設立、教職員・学生の国際交流活動の推進を積極的に行っていることは、国際交流を活発化している点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「地域住民に対する図書の貸出しや日曜日・休日開館を実施する等、附属図書館の地域への開放を図る」について、平成 19 年 10 月の福井県立図書館相互協力協定調印以降、県内公共図書館との相互賃貸システムの充実により、図書の貸出しが増加し、総合図書館において、平成 21 年 6 月から日曜・休日開館を実施したことにより、地域住民の入館者数が急増している。また、展示ホールを地域住民へ開放し、展覧会等も実施していることから、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「短期留学生プログラムの充実を図る」について、短期留学生プログラム

は、学術交流協定校からの留学生向けに作られたプログラムで、日本語能力を必要としないことから協定校からの希望者が多く、参加者の満足度も高く、平成 20、21 年度においても参加者及び申込者が増加している。また、参加者の約 40 %が帰国後再来日し、当該大学院修士課程に進学していることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「国際共同研究を推進し、また、JICA 等を通じた海外協力プロジェクト等を推進する」について、東アフリカへの国際医学教育・医療支援や中国四川及びハイチの地震被災地で国際看護活動を行うなど国際貢献を果たしている。また、東アフリカに広島大学・九州大学と協力して「東アフリカ外傷医学国際教育協力センター」を平成 22 年 3 月に設置し、骨接合材料の改良等の共同研究の推進、国連ミレニアム・プロジェクト委託事業に基づく国際協力機構（JICA）からの要請を受け、福井大学へ 6 名の現地医師の受入れを決定していることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「地域住民に対する図書の貸出しや日曜日・休日開館を実施する等、附属図書館の地域への開放を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、附属図書館の地域への開放について、総合図書館の日曜・休日開館を平成 21 年 6 月から実施したことにより、地域住民の入館者数が平成 19 年度から平成 21 年度（平成 21 年 6 月～平成 22 年 3 月の 10 か月）で 6.6 倍に増加していることから、「良好」となった。
- 中期計画「国際共同研究を推進し、また、JICA 等を通じた海外協力プロジェクト等を推進する」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「特色ある点」参照）